

御奉行所

一三歳以上者、迷子之分ニ候得者、様子不存捨子ニ候旨斷來候義有之候由、捨子、迷子等斷有之時者、其歳を相尋、三歳以上に候へ者、迷子之御取計、前書之通り之事、

〔徳川禁令考四十七〕安政四巳年二月

迷子臨時町觸。子。玄。る。べ。建。石。之。事。

南北小口

年番名主共

西河岸町家主十七人總代重兵衛外二人儀、迷子之儀、兎角所在不相分、町内之厄介ニ相成候も有之、不便ニ付、一石橋橋臺西之方江、建石補理、石面江、まよひ子の玄るべと朱文字ニ、彫付、同左之方江、たづぬる方、右之方江、まらする方と彫付、たづぬる方と彫付候方江、迷子方之親共より、迷子の名前、年頃、面體恰好衣類并家主の名前町名共委敷記張置、まらする方と彫付候方江、子迷留置候町内より、其所之町銘并迷子之名前年頃面體共前同様相記張置候様致候ハ、行衛相分可申、尤右張札ニ符合致し候者有之節ハ、早速其所江、爲相知候様致度旨願出、元來迷子訴有之節ハ、芝口江、掛札差出候儀ニハ、候得共、右願之趣外ニ子細も不相聞候間、願之通申渡候、依之兼而町役人共心得居候様、不洩様可申通候、

右之通被仰渡奉畏候、爲後日仍如件、

巳二月廿八日

名主 本所 文左衛門

同 村松町 源 六

同 佐内町 恒太郎

〔諸例類叢七〕辰〇寛政八年十二月二日、窪町中川因幡守居屋敷辻番所廻り場ニ、三四才之迷子有之、留置、住所相尋候得共、片言而已ニて相不分候由、御目付大久保權左衛門方へ届有之迷子之儀ハ、前